

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.11〉

### 〈西岐波① 特徴〉

宇部市の中心市街地から東に5kmほどの位置から広がる西岐波地区。朝から魚介類を競り落とす声が響く床波漁港、海水浴や潮干狩りで親しまれている白土海岸など瀬戸内海を生かしたスポットが多い。

## 瀬戸内海を生かしたスポット多数



西岐波ふるさと夏まつりを楽しむ地元民ら（2018年8月18日撮影）

### 魚市場開設は江戸時代



JR宇部線と国道190号が東西を走り、地域医療の中核を担う病院や介護施設が多い。床波駅周辺は、スーパーや金融機関が並ぶ商店街として、地区の中心となっている。1600年の検地で現在の東岐波や山口市阿知須などを含む白松庄岐波村が誕生。1872年に東岐波を併せた岐波村が

#### 基本データ

- 面積7.21平方キロメートル（11位）
- 世帯数6204世帯

- 人口1万2930人（2位）  
（男性6074人、女性6856人）
- 高齢化率37.9%
- 小学校児童数677人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

発足した後、79年に西岐波と東岐波に分離。市町村制の施行により89年から吉敷郡西岐波村として

歩みを始めた。床波に店（たな）と呼ばれる魚市場が開かれたのは、江戸時代の1800年。代々、領主の福原氏が主体となっていた経営は、明治時代になると民間へ、さらに村へと変わった。1926年に床波浦漁業組合に移管。組合員たちの一致協力した事業展開が、現在の漁協の礎を築いた。

順調に発展し続けた同港だったが、42年に周防灘台風が直撃。多くの家や田畑が流され、特に港は村単独での復旧が困難なほど甚大な被害を負った。この件が宇部市との合併を促進する一因となり、翌43年に編入合併して西岐波区がスタートした。その後、一部の地域は1978年に常盤地区へ、90年に川上地区へ分離し現在の範囲となった。近年新たに刻まれた西岐波の歴史に「西岐波ふるさと夏まつり」がある。地区コミュニティ推進協議会の夏まつりと地域に伝わる地蔵まつり、灯笼流しを一体化して15年前に始まり、市内でも規模の大きな行事へと成長した。毎年、床波駅前から権代橋付近までの旧国道を歩行者天国にして多くの来場者が屋台を巡り、地元の子どもたちや団体によるパレードとステージ発表が祭りを盛り上げる。隣接する沢波川では、亡くなった人を追悼する灯笼流しがあり、柔らかな明かりが夏の夜を彩る。